

# 舞踊と視線に関する研究

## ——内部への視線——

酒向治子・原 郁子・岡本雅子・石黒節子

これまで舞踊と視線という問題は、重要性が認識されながらもあまり論じられてこなかった。そのため近年、舞踊構造分析において、視線が重要な要素として扱われている点は注目できる。本研究では舞踊と視線というテーマを考える一例としてフォスターの視線についての考察をとりあげ、特に彼女がカニングハム舞踊の視線を「Inward Gaze」と特徴づけたことに着目する。また、内部への視線は東洋の舞踊にも見られる。ここでは日本の能、カニングハム同様、禪の影響を受けた世阿弥の視線に対する思想を考察する。(研究方法) まず、Dance Research 誌に掲載されたジャクソン・ナオミとアドシェドの舞踊分析をめぐる論文を検討することで現在の舞踊分析の流れを把握し、その中でフォスターの立場を明確にする。<sup>(1)</sup>次に、“Reading Dancing”におけるフォスターの視線の考察をカニングハム舞踊の「Inward Gaze」を中心に考察していく。<sup>(2)</sup>また、他のカニングハムに関する文献やカニングハム自身が述べた言葉等を調べ、「Inward Gaze」の概念がどの様にとりあげられているかを検討し、フォスターの述べる「Inward Gaze」の理解を深める。<sup>(3)(4)</sup>能における視線については世阿弥の伝書を中心に、視線に関する思想の推移を考察する。<sup>(5)</sup>また、世阿弥の長男元雅の作品〈弱法師〉をとりあげ、作品に反映されている視線を分析し、世阿弥の思想との違いを検討する。(考察)

1. ナオミ、アドシェド、フォスターの舞踊分析  
彼らは構造主義やポスト構造主義の思想を受け、ある舞踊作品の分析において、特定の時代、場所、背景などを総合的に分析することにより解読が可能であると主張する点で一致する。しかし、フォスターが振り付け家の舞踊へのアプローチや視点をより重視しているのに対し、ジャネットは観客側に見える舞踊作品の現象に重きを置き、更にナオミは観客の役割をより重視した舞踊分析論を展開しているという点が三者のちがいである。

2. “Reading Dancing”における視線の考察

フォスターは本書において、舞踊作品におけるダンサーの視線は振り付け家の舞踊創作の特徴をよく表しているとし、バランシン、グラハム、デボラ・ハイ、カニングハムの四人の作品とその視線の特徴を分析している。興味深いのは、カニングハム舞踊に見られる視線が「Inward Gaze」(内部への凝視)であるとする点である。これは、ダンサーが自己の運動力学的な筋感覚に集中している視線の事を指す。この時、ダンサーは自己の内部にのみ没頭するのではなく、同時に周囲のダ

ンサーの動きや自らの動きのフレーズ全体の流れ、観客の視線を意識している。カニングハム自身の言葉を見ると「エネルギーの集中」という点から強調され、多くの評論には「神経を集中させる」といった言葉で表現されている。これらのことと「Inward Gaze」との関わりを検討する。

3. 世阿弥伝書における視線

世阿弥の思想は、40代を境に和歌的なものから禅的なものへ、リアリズム的なものから抽象的なものへと大きく変わっているが、この推移の中で、視線に対する考え方も変わっていく<sup>(6)</sup>。世阿弥の初期には、写実的物まねに重点がおかれており、視線の動きの巧みな先人を高く評価していることから考えて、肉眼を表現手段の一つとして重視していることが分かる。一方、後期の書物を見ると、『至花道』以降「遠見」という言葉が散見しており、また、目づかいに対する記述は一切なく、「心」という言葉を多用している。ここで言う「心」は、肉の集中力をあらわしているが、世阿弥は身体表現のカギを肉眼から心眼へと深めていったと考えられる<sup>(7)</sup>。

4. 〈弱法師〉における視線

〈弱法師〉という作品は、盲目の俊徳丸をシテとする物狂能であり、注目すべき点はストーリー展開にある。主人公は①肉眼を失ってはいるが、心眼で極楽浄土の致景を見、さらに②心眼で致景を見て舞い狂うが、現実世界で周囲の人々が見えずにぶつかって転んでしまう。①の部分は、歌舞の担い手である盲人が、肉眼は見えなくても心眼の方がよく見えるという他の作品にも共通する設定である。これは世阿弥の心眼の考え方をふまえたものであろう。しかし、②では、心眼に悟りの境地を映し出し、舞い狂っていたはずのシテが転倒してしまう。この場面に心眼を絶対視しない作者の考えが反映されている。

注(1) Jackson, Naomi. 1994 “Dance Analysis in the Publications of Janet Adshed and Susan Foster” Dance Research Vol. X II No. 1 Oxford University Press, p 3-11

(2) Foster, Susan L. 1986 Reading Dancing: Bodies and Subjects in Contemporary American Dance. University of California Press.

(3) Lesschaeve, Jacqueline. 1985 The Dancer and the Dance. NY: M. Boyars Publishers.

(4) Klosty, James. ed. 1975 Merce Cunningham. New York: Saturday Review Press.

(5) 表章, 加藤周一校注 日本思想大系24 1974 『世阿弥 禅竹』岩波書店

(6) 香西精 1972 『能謡新考——世阿弥に照らす』岩波書店

(7) 松岡心平 1994 「室町の芸能」岩波講座『日本通史第9巻 中世3』岩波書店